

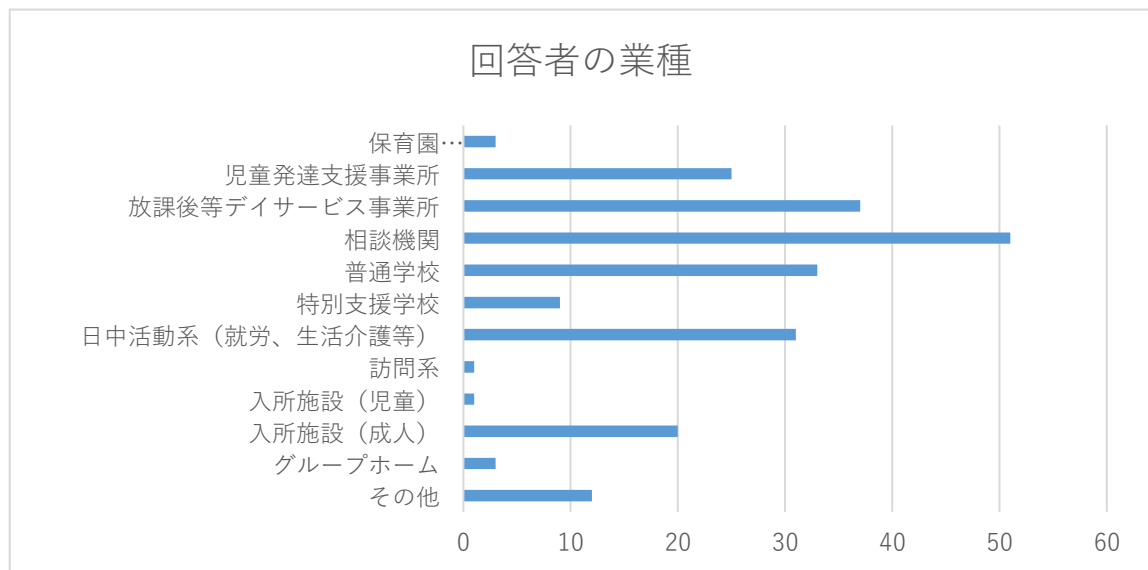
アンケート集計結果

「感染症の流行とそれに伴う自粛生活等における、発達障害児者やその家族、関係支援者の現状と支援ニーズについての実態把握のためのアンケート調査」

【支援者向け】

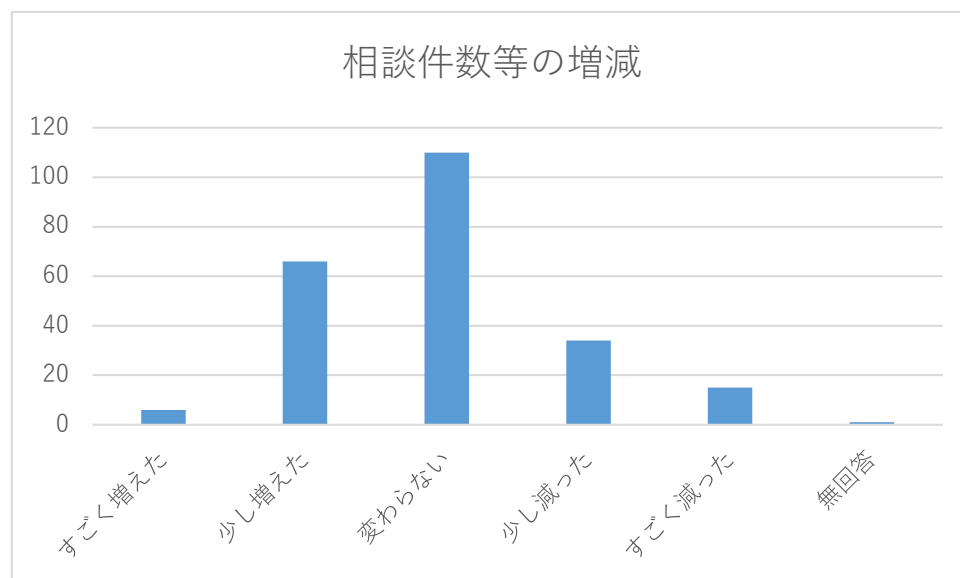
有効回答者数 231 人

Q1. あなたの所属を選択してください。

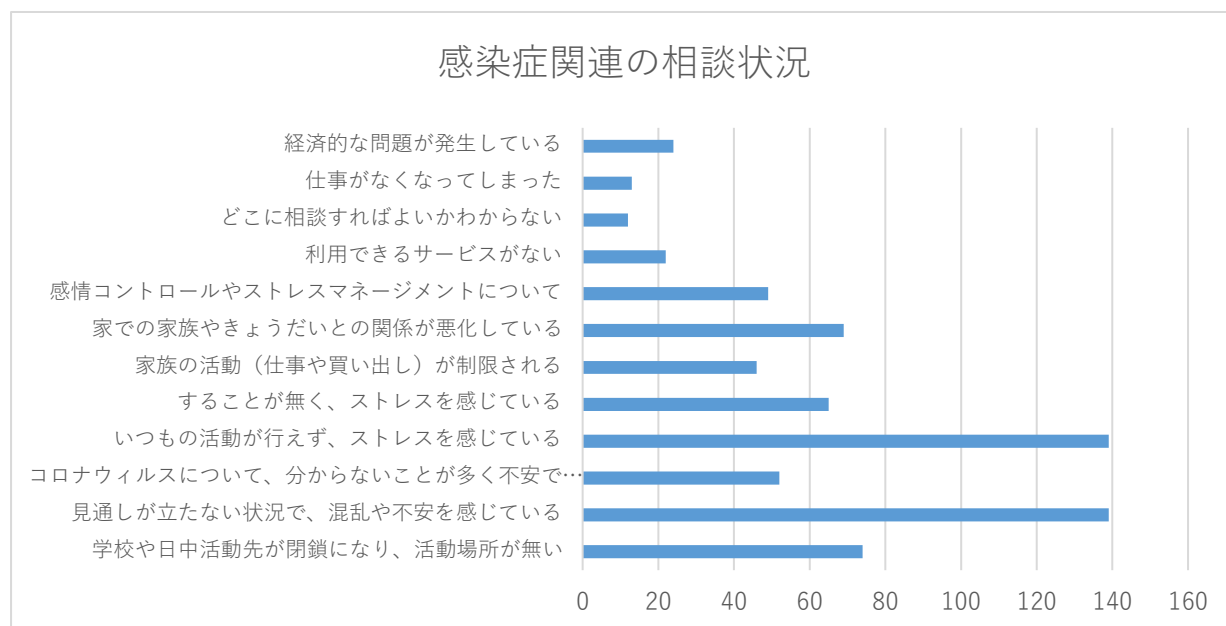


※その他： 保健センター（保健師）、市町村担当者、医療機関 等

Q2. 感染症の流行や、自粛要請がなされる中で、例年の同時期と比較し、貴機関に寄せられた相談件数や支援要請、問い合わせ等の増減はありましたか？



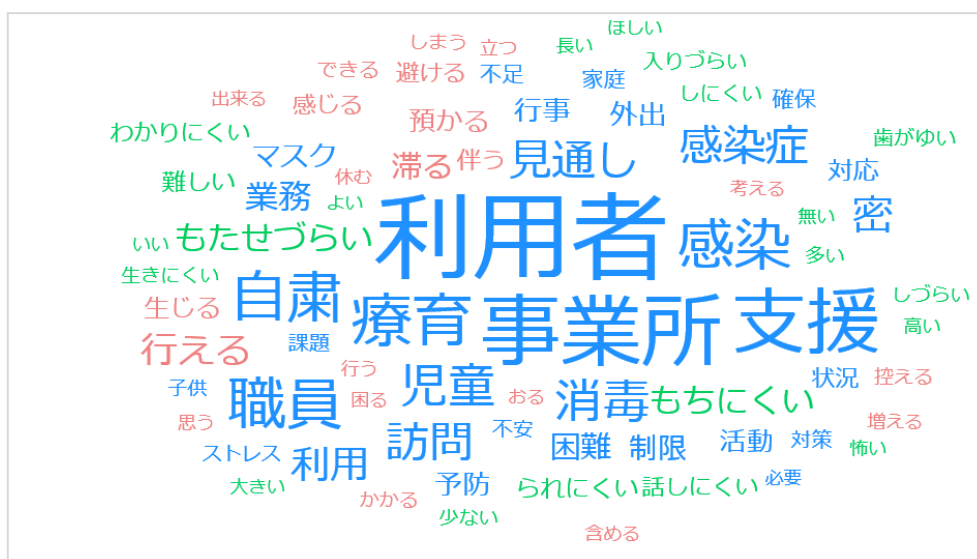
Q3. 寄せられた相談件数の増減に関わらず、感染症の流行や自粛生活に関連した相談があれば、当てはまる項目すべてにチェックを入れてください。（複数選択）



その他※主なものを抜粋

- ・不眠、食事量の変化等による生活リズムの悪化が心配
- ・宿題など、すべきことへの集中力が持続しない、ゲームを長時間してしまう
- ・長期の自宅待機による保護者への依存
- ・（保護者、子ども共に）外出自粛によるストレス
- ・いつもと違う日常への不安とストレスへの対処法
- ・人口の多い地域を行き来する家族がいる利用者の通所の可否について
- ・帰省の可否について
- ・帰省自粛などによるスケジュール変更と代替行事の検討
- ・支援を進めたい保護者と休校が続く学校とのギャップに関する相談
- ・感染症対策について
- ・感染症に罹患しているのではという（過剰な）不安と現在利用可能な医療サービスの問い合わせ
- ・デイサービス等、事業所再開の基準や判断のための方針を知りたい
- ・感染リスクの軽減と子どもの成長を比較したときのメリット・デメリットを知りたい
- ・ニュース、世間の動向を理解できず、帰省自粛から家族に見捨てられたのかと不安になっている
- ・学校再開後の行事や学習に関する相談
- ・高等部への教育相談や就労実習の目途が立たないなど、進路に関する相談
- ・一般就労されている方で、自宅待機となったものの職場復帰の見通しが立たず不安という相談
- ・新しい居住先の支援機関情報について
- ・施設の空き状況についての問い合わせ
- ・休校で刺激やストレスが減り、普段より落ち着いている
- ・イレギュラーな事態の中で保護者の理解と協力が特に重要だと感じた

Q4. 貴機関の業務において、感染症の影響により、困っていることや、課題だと感じていること等があればお書きください。（自由記述）



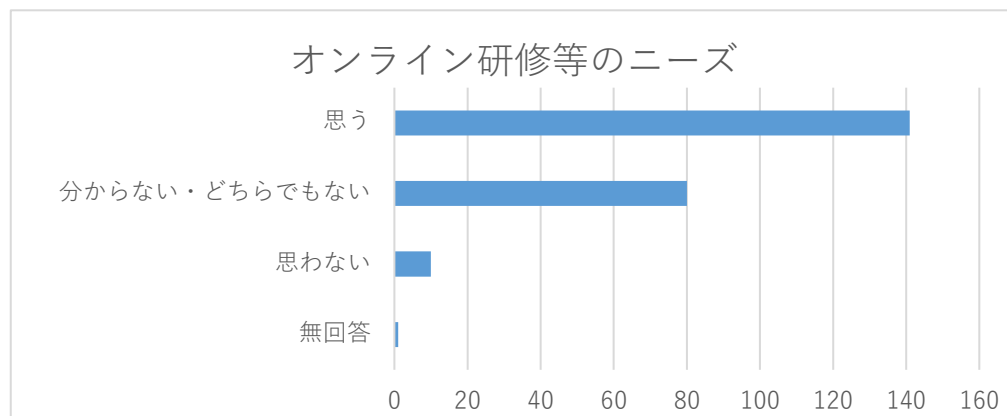
※テキストマイニングによる分析。記載された文章内で使用頻度の高い単語ほど大きく表示される。

※以下、一部抜粋

- ・利用者の外出、通所、帰省の自粛とそれに伴う支援の間接化
- ・支援の書類的な手続きが電話、郵送を介するため、時間と手間がかかる
- ・理解が難しい利用者への感染症や現状についての説明
- ・マスクを付けられない、車椅子など障害が重い利用者の感染リスクの軽減方法
- ・重症化しやすい利用者への対応
- ・外出自粛、活動自粛による閉鎖的な施設内での感染リスクの増加
- ・職員と利用者の体調管理、情緒の安定、心のケア
- ・余暇が少ない
- ・進路指導が遅れている
- ・休校による学力差の拡大
- ・授業内の活動の制限により、従来のやり方で進められない
- ・年間予定を提示できないため、保護者や生徒へ学習の見通しを持たせることが難しい
- ・支援の途中であった公共交通機関の利用や他児とのコミュニケーションができない
- ・デイの休みが明け、これまで取り組んでいたことがリセットされて振出しに戻ってしまった
- ・開設時間を増やしたため、会議などができず個別支援計画の見直しができない
- ・感染症対策への意識の統一と利用者、保護者への自粛・予防対策の理解と周知（保護者との連携）
- ・体温計、消毒液、マスクなどの備蓄（品不足により購入不可）
- ・マスクづくりや消毒など業務外の仕事の増加
- ・濃厚接触の疑いがあっても検査できず、対応が2週間自宅待機のみとなってしまう
- ・保護者から、国から推奨されている対策（2週間待機など）が実態に合っていないと苦情が入る
- ・感染者や濃厚接触者が出た場合の対応やシミュレーションについて
- ・新規入所のお断りや再開の基準がなく困っている
- ・国や保護者から予防対策の要望があるが、現場の負担ばかり増して職員が疲弊してしまう
- ・感染リスクを減らさなければならないが、必要な人員が増えているため対応が矛盾してしまう

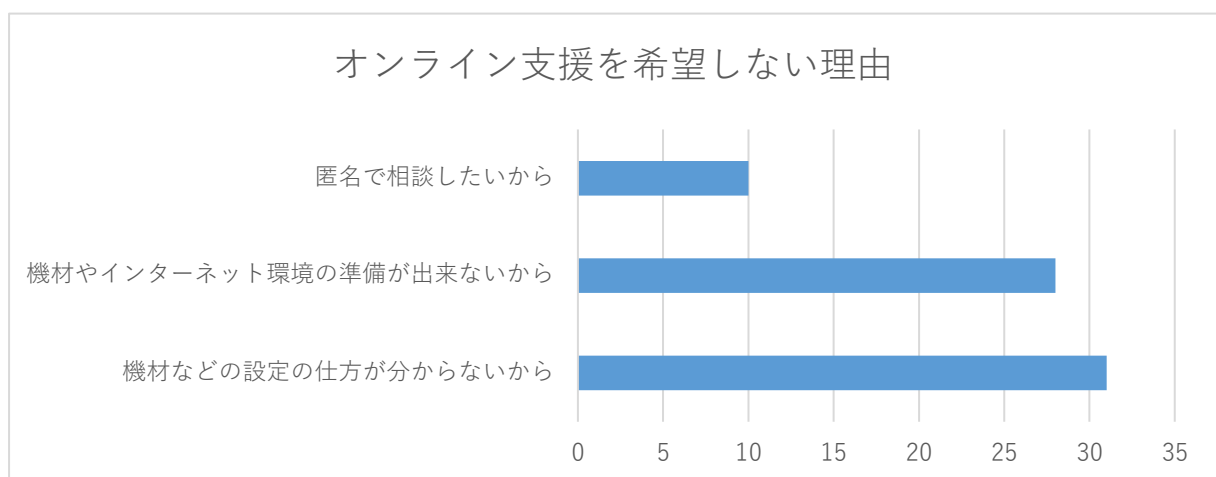
- ・散歩、簡易運動（youtubeにある運動動画、ラジオ体操）など、気分転換になる余暇活動
- ・外出自粛のため、代替余暇としてごっこ遊び（買い物ごっこ、カフェごっこ）を導入
- ・プランター菜園を始めた（広い空間、社会的距離の維持、ストレス対策、話のきっかけづくり）
- ・コロナに負けるななどのコメントを入れたアート作品の製作、ホームページで公開
- ・公共交通機関の利用を減らすため、送迎車を利用
- ・テイクアウト外食
- ・保護者へ電話やお便り、機関紙などによる情報提供
- ・相談窓口の一本化
- ・災害規模の対策が必要と思い、行政に物品・人材派遣・宿泊施設の協力要請を行なった
- ・十分な職員確保のために、帰宅困難職員が出ることを想定して居住できるスペースを設けた

Q6. オンラインでの研修、コンサルテーション等があれば、利用したいと思いますか？



Q7. オンラインでの研修やコンサルテーションを希望されない理由について、当てはまる項目すべてにチェックを入れてください。

※Q6で「思わない」、「分からない」を選択した人のみの回答



その他※主なものを抜粋

- ・不特定多数や初めて会う人などコミュニケーションを取るのが難しく不完全燃焼に終わりそう
- ・人間相手の仕事であるため、職員同士の会議や研修であれ、面と向き合いわずかな表情の変化や動き、行動を肌で感じる事が大切と考えるため。また、グループワークはその後の業務（面と向き合う）に直結する大切な学びの場と考えるため。
- ・齟齬があったり、ニュアンスが伝わらなかったりなど、上手にやり取りができないと思う
- ・学習環境や生徒の関係性など、背景の情報が不足するため
- ・福祉の性質上、オンラインは難しいと思う
- ・前例がないため、日々の業務の中から取り組むために時間と準備が必要
- ・通常業務があるので難しい（時間確保が難しい）
- ・通信料金や環境の整備（静かな場所の確保、機材の購入）など課題が多い
- ・ADSL でも大丈夫か不安
- ・zoom の安全性に対する危惧があり、機関の PC にインストールするのは反対との声があった
- ・自治体が設置している端末であるため、ネット環境が十分に整えられるか不安
- ・オンラインでの研修やコンサルテーションがあるのを知らなかった
- ・どんなコンサルテーションを行なってもらえるのか、どこまでニーズに応えてもらえるのか不明
- ・機関として許可を貰うのは難しいが、個人単位で、自宅で研修するのではれば参加したい
- ・オンラインでできることに制限がありそう
- ・講義のみであれば問題ないと思うが、グループワークは難しいと思う
- ・必要性を感じない
- ・研修の内容による
- ・パソコンに向かって集中力が持つか心配